

インタビュー

アジャイルな体制で クラウド関連技術を中心にした 研究開発を積極的に推進

「ビジョン2015」のもと、グローバルクラウドビジョンに基づく革新的で高信頼のICTサービスをグローバルシームレスに提供することを目指すNTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）。そのR&D部門として、基盤領域の新技术開発から新ビジネスモデル／新サービスの創出に注力する先端IPアーキテクチャセンター（以下、IAC）の取り組みについて、高間 徹所長にうかがった。

9つの柱からなる技術ビジョン に基づき、R&D活動を展開

—まずは、IAC様におけるR&Dの最近の状況からお聞かせください。

高間 私どもIACは、ライフスタイル、環境の変化などユーザー視点の変化から考える3～5年後の技術の将来像である「技術ビジョン」に基づき、開発を行っています。これは、研究開発の方向性・テーマを明確化し、全社的にオーソライズされたもので、NTT研究所の技術や市中の技術などを含め、弊社の技術部門が考える技術の将来像をIACが主体となって取りまとめています。現在の技術ビジョンは9つの柱からなり、その多くはNTT Comが掲げる「グローバルクラウドビジョン」に関連したものです。この技術ビジョンは、激しく変化する世の中の環境にタイムリーに対応するために、年2回（1月と7月）更新しています。

—技術ビジョン実現は、どのようなプロセスで行っていますか。

高間 今後サービスを実現する際に

重要となる技術項目についての開発シナリオ「技術ロードマップ」を、策定し、実現時期を明確化しています。技術項目は、弊社のみならず、NTT研究所との連携、他社の技術利用などを含めたもので、四半期毎に見直していきます。

SDNを含めたクラウド関連技術 などの研究開発に注力

—技術ビジョンに基づく研究開発で、最近特に注力されている技術領域は……。

高間 やはり全社のビジョンであるクラウドに一番力点をおいています。また、急激な普及・拡大がライフスタイルと環境の両面に大きな変化をもたらしているスマートフォン関連の技術、さらには未曾有の被害をもたらした東日本大震災の教訓を踏まえたBCPや在宅勤務関連技術などがあげられます。

—クラウドやスマートフォンでは、どのような研究開発に取り組まれていますか。

高間 1つは、ネットワークを提供



NTTコミュニケーションズ(株)
先端IPアーキテクチャセンター
所長 高間 徹氏

する会社として、ネットワーク機器の設定や運用をソフトウェアで集中管理・制御する仮想ネットワーク「SDN (Software Defined Network)」及びSDNを実現する「OpenFlow技術」の研究開発を行っています。将来は、ソフトウェアを活用してお客さま自身がネットワークを制御することが可能になると考えています。また、オープンなクラウド基盤ソフトウェアであるOpenStackの調査研究にも取り組んでいます。

スマートフォンについては、いかに柔軟に便利に活用できるようにするかに注力しています。具体的には、「スマートフォン開発推進ストラテジックユニット」を編成し、スマートフォンのOSに依存しないソフトウェアの稼働環境の研究開発や、OSの違いによる特性を技術ノウハウとして蓄積し、お客さまにとって使いやすく、かつ高品質なソフトウェアの開発に取り組んでいます。本

ユニットは、iOSやAndroidに精通したエンジニアを含め約20名で構成しています。

Cloud Foundryに積極的に関与

——2012年は、重点施策としてどのようなことをお考えですか。

高間 グローバルクラウドビジョンを技術面からサポートすることが第一です。私自身、クラウドサービス部の「グローバルクラウド共通機能開発タスクフォース」のリーダーを務めていることもあり、IACからもメンバーを出し、クラウドサービス部のアクティビティをお手伝いしています。また前述したSDNによる仮想ネットワークに加え、クラウド上にaPaaSをのせる取り組みも積極的に推進していきます。具体的には、まずはVMwareが提供しているオープンなPaaSソフトウェアである「Cloud Foundry」に、日本企業として他社に先駆けて積極的に関わっていくことを考えています。NTT研究所とも連携して、日本国内でのコミュニティ活動を行うことも検討しています。

——Cloud Foundryに積極的にコミットされる最大の理由は……。

高間 クラウド環境において、アプリケーションの効率的な開発、展開、運用・管理を容易に実現できるオープンソースのPaaSプラットフォームであるという点です。特定のクラウド環境に制限されず、運用にVMwareインフラを必要とさせません。アプリケーション開発者は、ク



ユニット制についてディスカッションする社員の様子

ラウドインフラをまったく気にせず
に開発に専念することができます。

オペレーションランドデザイン とオープンラボの取り組みも加速

——クラウド以外の重点施策については、いかがですか。

高間 お客様を起点にしたオペレーションの実現をコンセプトにした「オペレーションランドデザイン」に対する取り組みをさらに加速していきます。

また、ベンチャー企業など外部のパートナー様と一緒に新しいビジネスモデルを考える「オープンラボ」を2010年5月に開始しましたが、この取り組みをさらに加速していきます。当初は5社が参加、5案件からスタートしましたが、現在までに累計で30社がこのプログラムに参加しています。海外を含めて新しいビジネスモデルの案件を発掘しているほか、日本企業の海外進出をもサポートしています。また、本格的なクラウド時代を迎えたことから、クラウド関連の各種コミュニティ活動にも積極的に参画していきたいと考

えています。その狙いは、NTT Comのプレゼンスを高めることと、クラウドのエコシステムの実現です。

——最後に、新年の抱負をお聞かせください。

高間 昨年8月の全社の機能別組織への再編で、IACは各組織間を埋める役割も担うことになり、以前にも増して活躍の場が広がりました。IAC内の組織も目的別のユニット制に変更し、案件に応じてアジャイルにユニットを編成・解散することを可能にしました。その意味では、開発テーマのスクラップ&ビルドの仕組みが以前にも増して機能しやすくなったといえます。

IACに在籍する社員は、実際にサービスが提供されている状況を把握しそれを研究開発にフィードバックすることで、世の中に役立つ技術が磨かれるということを念頭に組みこんでいただきたいと思います。そうすることで、2012年も必ずや道が開かれると思います。

——本日は有難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)